



お元気ですか!

志村 たかよし です

第670号 2013年12月1日

日本共産党中央区議団

中央区 築地 1-1-1
電話 3546-5563
FAX 3546-9570

全国で唯一、県庁所在地にある原発 島根原子力発電所を視察



原子力館の前庭から望む島根原発

10月29日～31日に行われた企画総務委員会の行政視察（鳥取県鳥取市、島根県松江市）の機会をとらえ、全国で唯一、県庁所在地に立地している島根原子力発電所を視察しました。

島根原発から半径10kmには、県庁や市役所、大学や病院などがあるのです。

厳重ガードで中に入れず

中国電力が建設中の島根原発3号機については、現在、国による

原子炉設置許可の無効確認と中電への運転差し止めを求めた訴訟の口頭弁論がはじまっています。

原発敷地に入るゲートは2カ所ありましたが、どちらも厳重警備で、タクシー運転手の話では「労働者を敷地内に運ぶ運転手の弁当箱の中身まで調べられる」そうです。

まさに、人を寄せ付けない異常な雰囲気であり、ゲート付近を撮影しようとするだけで警備員が駆けつけて取り押さえられそうな気にさせられました。

結局、ゲート付近の写真を撮ることはできませんでした。

島根原発の敷地には入れなかったため外からの写真を撮りました（上写真）。

その後、島根原発の近くにある原子力館を視察しました。

原発は、せり出した山に囲まれ海に面した場所にあり、原発本体を観察できる所は、原子力館の庭1カ所しかありませんでした。



低学年を対象としたような館内でした。

放射能の安全性をすりこむ展示

原子力館は子どもを対象としたPRとなっており、「原発は安全」

「放射能は身近に存在し、怖いものではない」「CO2を排出せず地球環境に優しい」などの宣伝をゲームや簡単な実験で体験させようという施設でした。

原子力館は、莫大な経費をたてて子どもたちを放射能に鈍感にさせよう、安全性をすり込もうという意図が見え見えで、福島第1原発事故を経験した現在は、展示物が白々しく感じられました。

松江市「堀川浄化プロジェクト」を視察

日本橋川の浄化活動に活かすため、松江市の堀川環境改善事業「堀川浄化プロジェクト」を視察しました。

松江城を囲む堀川は溜め池状態となっており、宍道湖でアオコが発生するなどの影響も受け、透明度が著しく低下しています。

堀川遊覧船の乗客からも苦情が出ており、私も船に乗って観察しましたが、水質はとてもきれいとは言えない状態でした。

そのため、松江市は、全国各地のお堀の水質浄化事例などを参考に、市民と協働して「できることから少しずつ」水環境改善に取り組むことにしました。

私が、視察したのは「シジミ生息実験」「Hi（ハイ）ビーズ敷設」「アクアリフト散布」の3カ所です。

シジミ生息実験

「シジミによる浄化実験」と聞いて、さすが宍道湖！と期待を持って視察したのですが、実験場所の堀川遊覧船カラコロ工房乗船場の船頭さんの話によると「7月に設置したシジミはすぐ死んだよ」とのこと…。

引き上げていただいたシジミが入った網には、目詰まりするほど海苔の様なものが付着していましたが、さて、その結果はいかに。



堀川遊覧船カラコロ工房乗船場（右）。船頭さんに引き上げていただいたシジミが入った網。



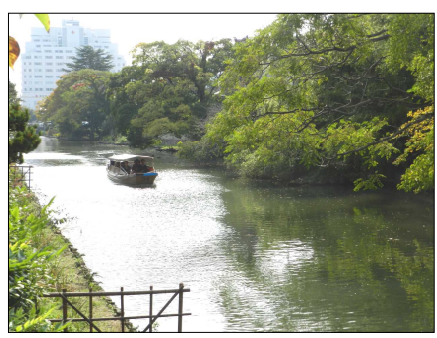
ハイビース・アクアリフト散布実験

「Hiビーズ」「アクアリフト」という浄化剤を使った実験は、場所は確認できたものの、残念ながら実物を確認することはできませんでした。「Hiビーズ」とは、火力発電所から排出される石炭灰（フライアッシュ）に、微量の



右は、「Hiビーズ」を敷設した松江城大手前乗船場の西側のあたり。下は、アクアリフトに重石をつけて沈めたり、即効性タイプを散布した米子川のあたり。

セメントやカルシウムを混合したもので、「アクアリフト」とは、微生物による水質浄化資材です。どちらも実験をはじめから3ヶ月ということですが、結果はまだ出ていませんでした。



「意見」「要望など」お気軽に「連絡ください」(03100000000)